

循環器内科を受診している患者さんへ

当科では、下記の研究を実施しています。この研究は、愛知医科大学医学部倫理委員会において、ヘルシンキ宣言の趣旨に添い、人を対象とする医学系研究に関する倫理指針、ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針等を遵守し、医の倫理に基づいて実施されることが審査され認められた研究です。

今回の研究は、対象となる患者さん一人ずつから直接同意を得て行う研究ではなく、研究内容の情報を公開し、研究対象者となることを拒否できる機会を与えることが求められているものです。もし、この研究に関するお問い合わせなどありましたら、以下の「問い合わせ先」までご連絡ください。

記

研究課題名	下行大動脈汎拡張期逆行性血流と中等度大動脈弁逆流との関係についての検討
研究機関名	愛知医科大学病院
研究機関の長	病院長 藤原祥裕
担当科等	循環器内科
研究責任者	(職名) 准教授(特任) (氏名) 中野雄介
試料・情報を利用する学外の研究機関名・研究責任者名	なし
研究の意義・目的	中等度大動脈弁逆流の簡便な診断法を見つけることを目的としています。大動脈弁逆流は日常臨床で度々みられる心臓弁膜症であります。高度大動脈弁逆流であれば心血管イベントの原因となるため外科的手術を要し、その重症度評価が重要となります。近年、外科的大動脈弁手術に代わって経カテーテル的大動脈弁植え込み術 (TAVI) が急速に普及しています。TAVI 術後大動脈弁逆流はしばしば認める合併症であります。その重症度が中等度以上である場合予後不良であることが知られています。よって高度のみならず、中等度大動脈弁逆流の評価が今まで以上に重要となってきました。大動脈弁逆流の重症度はドプラ法を用いた心エコー図で定量的評価を行うことが推奨されています。しかし心エコー図での定量的評価は技術的に難しく煩雑で経験を要し、しばしば困難であります。一方、心エコー図を用いた半定量的重症度評価方法として HDFR(holodiastolic flow reversal : 下行大動脈汎拡張期逆行性血流)が知られます。HDFR は技術的にも容易で短時間でできる簡便な指標であります。HDFR と高度大動脈弁逆流の関連は以前より知られていますが、中等度大動脈弁逆流との関連は明らかになっていません。HDFR と中等度大動脈弁逆流の関係を明らかにすることでより簡便に中等度大動脈弁逆流を検出できる可能性があります。
対象となる患者さん	2015年4月1日から2016年12月31日の期間で軽度以上の大動脈弁逆流を有し経胸壁心エコー図にて定量的評価が行われた20歳以上の患者さん
研究の方法	研究の方法 患者情報は当院のカルテ情報をもとに抽出します。それらを用いて HDFR

	と中等度大動脈弁逆流との関係を検討します。この研究に関して、研究計画や方法などの情報をお知りになりたい場合は、本研究の実施担当者にお申し出ください。ほかの患者さんの個人情報や研究全体の支障となる事項以外はお知らせすることができます。
研究期間	倫理審査承認日 ～ 2025年8月31日
研究に用いる試料・情報	試料：なし 情報：診療情報、心エコー図など
外部への試料・情報の提供	なし
試料・情報の利用又は提供を希望しない場合	本研究への試料・情報の利用又は提供を希望しない方は、2023年12月31日までに下記問い合わせ先まで申し出てください。
問い合わせ先	愛知医科大学病院 循環器内科 担当者：(職名) 医員助教 (氏名) 鈴木航 〒480-1195 愛知県長久手市岩作雁又1番地1 電話 0561-62-3311 (内線 23490)